**難しい高校教科書を用いた英語で行う授業の実践（日本語の論文題名はMS P明朝体太文字12ポイント）**

**―ラウンド制指導法の融合―（なければ１行あける）**

**Teaching English Through Difficult Textbooks:（英語の論文題名はCentury Bold体12ポイント）**

**The Integration of Round System（なければ１行あける）**

キーワード：キーワード1、キーワード2、キーワード3（MS P 明朝体10.5ポイント）

日本語と英語の氏名の姓と名の間に半角スペース→中部 太郎（MS P 明朝体10.5ポイント）

CHUBU Taro（Century 10.5ポイント）

**1.　はじめに　（MS P 明朝体太文字10.5ポイント）←本文は9行目から**

このテンプレートに基づいて書いてください（本文、投稿時点の勤務校、注、引用文献はMS P 明朝体10.5ポイント）。

**1.2 セクション番号**

　見出し番号の後ろにはピリオドを入れる。本文を日本語で書く場合、引用の括弧は、（Shirahata, 1988; 横田, 2014, p. 26）のように、全角（）で記載する。

**2.　図表について**

　表は通し番号を付ける。通し番号と表のタイトルは同じ行に記して、表の上下部には1行分スペースを入れる。数字や文字は揃える。サンプルのように罫線（枠線）はなしとする。

表 1　テストの結果（*N* = 66）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| グループ | テスト | *M* | *SD* | Skewness | Kurtosis | Min | Max |
| 処置群  （*n* = 33） | 事前テスト | 2.91 | 2.09 | 1.07 | 1.16 | 1.03 | 9.10 |
| 事後テスト | 4.32 | 2.23 | 0.16 | 1.34 | 1.23 | 8.64 |
| 対照群  （*n* = 33） | 事前テスト | 3.32 | 2.44 | 0.23 | 1.31 | 1.12 | 8.82 |
| 事後テスト | 3.82 | 2.42 | 0.20 | 0.97 | 1.54 | 8.89 |

図は通し番号を付ける。通し番号と図のタイトルは同じ行に記して、図の上部に1行分スペースを入れる。なお、図（写真等も含む）はカラーではなく白黒にする。

図 １　テストの結果（*N* = 66）

ダイアグラム

低い精度で自動的に生成された説明

**引用文献**

青木昭六 (1990a). 『英語授業の組み立て―より分かりやすく、より興味深く』 開隆堂出版.

青木昭六（編） (1990b). 『英語授業実例事典』 大修館書店.

Cook, V. (1991). *Second language learning and language teaching*. Edward Arnold. 〔米山朝二（訳）(1993)『第2言語の学習と教授』 研究社〕

Gass, S. M. (1997). *Input, interaction, and the second language learner*. Lawrence Erlbaum.

平野絹枝 (2004). 「日本人大学生の読解におけるリコールテスト―性差の影響―」『中部地区英語教育学会紀要』, 33, 239–246.

北弘志 (1994). 「第5章3節 ４技能の実際的指導法」片山嘉雄・遠藤栄一・佐々木昭・松村幹男（編）『新・英語科教育の研究（改訂版）』 (pp. 216–226). 大修館書店.

Lightbown, P. M., & Spada, N. (1999). *How languages are learned* (2nd ed.). Oxford University Press.

松川禮子 (2004). 『明日の小学校英語教育を拓く』 アプリコット.

文部省 (1998). 『中学校学習指導要領』 大蔵省印刷局.

Nassaji, H. (2003). L2 vocabulary learning from context: Strategies, knowledge sources, and their relationship with success in L2 lexical inferencing. *TESOL Quarterly*, *37*(4), 645–670. https://doi.org/10.2307/3588216

Shirahata, T. (1988). *The learning of English grammatical morphemes by Japanese high school students* [Master’s thesis, The University of Arizona]. The University of Arizona Campus Repository. https://repository.arizona.edu/handle/10150/276802

Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Seidlhofer (Eds.), *Principle & practice in applied linguistics: Studies in honour of H. G. Widdowson* (pp. 125–144). Oxford University Press.

遠山敦子 (2002). 「『英語が使える日本人』を育成しよう!!」『小泉内閣メールマガジン』, 第58号(8月). http://www.kantei.go.jp/jp/m-magazine/backnumber/2002/0808.html

渡邉時夫・森永正治・高梨庸雄・斎藤栄二 (1988). 『インプット理論の授業』 三省堂.

横田秀樹 (2014). 「SLAの観点から考える　していい『引き算』、避けたい『引き算』」『英語教育』, 2月号, 26–27. 大修館書店.